



# 川面が丘 5月号



令和4年(2022年) 5月 2日 宝塚市立宝塚小学校

校長 藤山 昌生



4月には、本当に久しぶりの教室での授業参観、学級懇談を開催することができました。「お家の人に自分のがんばっている姿を見てもらいたい」という気持ちが叶い、子どもたちそれぞれの輝きを感じました。今は、緊急事態宣言等の措置がない中で教育活動を進めることができますが、新型コロナウイルス感染症に係る臨時休業(学級閉鎖)の措置をとっている学級もあります。引き続き5月も、校外学習等の行事も多くあります。今後も、感染症対策をしっかりと講じながら、教育活動を進めてまいります。

先日から図書委員会の子どもたちは、「先生のおすすめの本」についてインタビューをすすめてくれています。私も2冊(2名の作者)の本を紹介しましたが、他の先生方がどんな本を紹介されているのか、私も楽しみにしています。

先日、娘の誕生日にと私の母が絵本をプレゼントしてくれました。それは、『ちよつとだけ』(瀧村有子さく、鈴木永子え、福音館書店)という本でした。この本の主人公は、下のきょうだいが出たことで、ちよつとずつ我慢をしたり、ちよつとずつできることが増えていきます。でも、まだまだ甘えたいという気持ちの切なさも描かれています。

母がこの本を贈ろうとしたきっかけは、ラジオで本の紹介があったからだそうです。本の内容を紹介されていた方の気持ちの高まりを聞いて、すぐに近くの本屋さん何軒かに足を運んで買ったようです。自分の読んだ本を公式ルールに沿って紹介していく「ビブリオバトル」という楽しみ方もありますが、母の気持ちとその書評がぴったりと合ったのでしょう。

今は、例えば「〇歳、誕生日、絵本」とネット検索すると、それに適したものが出てきて、「ポチッ」とすればきれいにラッピングもされて、遠くの場所にまであっという間に届く便利な世の中です。

時には、スピーディーな便利さも大切ですが、今回は、贈る相手のことを想像しながら、実際に本を手にとり、その温かみまでも届けたいという母の気持ちも一緒にいただいたような気がします。子どもたちにも、相手を意識し、相手を想像しながら生活することの大切さを伝えていきたいと思います。

